

太 工 同 窓 会 報 創刊号

昭和 42年 10月 20日
群馬県立太田工業
高等学 校
同 窓 会

同窓会報の創刊号がこのたび発行されることになりました。つきましては、会長として一言のべさせていただきます。

同窓会報を発行しようという計画は前々からありましたが、なにごとにも私個人の力不足と経験のなさから発行できず、延々になつてしまい誠に申しわけな

の皆さまは、母校の伝統精神に生き、各々の職場や大学において全力を発揮し、ますます活躍されることと思います。

また、母校の後輩達にも、私達の働きあけた校風を更に充実したものとし、有志者を学校生活を送れるよう協力してゆきたいと思ひます。

同窓会報創刊に際して

会員の皆さまへ

会長 (一五) 林 進 一

いと思つていきます。私が本校を卒業してから約二年七ヶ月たります。月日の流れはまづたく早いものです。このめまぐるしく発展していく社会の一員として自己を見失わず社会の歯車として噛合つていくのは非常に大変なと思ひます。さいわいにして、我が太田工業高校同窓会員

同窓会の発展のため、今後いろいろな計画を立てたり、活動を行つてゆきたいと思ひます。私達も微力ながら努力致しますが、会員の皆さまの御協力を御願ひ致します。同窓会員の皆さまの御健康と、御多幸を祈り、挨拶にかえたいと思ひます。

同窓会員の皆様、それぞれの職場で御活躍のことと存じ、およろこび申し上げます。私、島岡校長先生の後任として、今年の四月に、本校に着任致しました者でございます。

就任の

ごあいさつ

前校長先生は本校創設以来、着々と環境を整備され県下稀に見る近代的な学舎を建設させるとともに、校風の樹立にも心を砕かれて、これまた他校に抽出てた成果を上げられました。私こと浅学薄才でございますが、前校長の意を受け継いで本校の発展のために微力をつくす覚悟でございます。

学校は御承知のように、一朝一夕にして完成するものではなく、長い伝統と風雪にたえて成長して行くものと思ひます。本校は所請生徒急増期に設立された新設校としては県下第一番目の学校であります。皆様こそは本校の先達として、本校の発展を確約して下さい。

竹内保治 校長

先輩諸兄へ！

第二回工業祭を

御案内申し上げます

十一月一、二、三日の三日間工業祭を実施致します。三年に一度の行事で未だ二回目ではあります。先整に負けない様努力しております。前回は同様クラブ

の展示(活動発表)と工業科の開放が主であります。クラブは二十参加し、機械科では復旧なつた計測実験室、電気科では宇宙通信や電子計算機など、工業化学科では充実された設備等があります。又体育館では井田大会(三日)もあり発展する母校の様子をこの機会にぜひお知らせ下さい。

支部を作るう

副会長(二〇) 関 昌三

富士重工は発売以來十周年を迎えようとしているスバル三六〇を主流とする軽自動車と、昨年発売の富士重工技術の総結集車FF(フロントエンジン、フロントドライブ)のスバル一〇〇〇関係の小型自動車の生産を行つていますが、今までの軽の富士重工から小型車の富士重工へ脱皮しようとしています。その様な状態の富士重工へ毎年地元就職者の大半が入社しています。しかし、同期生の間でも科が違えば名前も良くわからなないのであるから卒業年度が違えば先輩の顔や名前などわかるはずがないし、又家を離れて寮生活を送っている者と違ひあえて同窓生同志団結しようという必要性を感じなかつたが、この辺で同窓会富士重工支部でも結成しようかという気運になりつつある状態です。同窓生の皆さん太田工業高校の爲、そして自分個人のため、大いに頑張ります。

同窓生の諸君、お元氣でそれぞれの職場でご活躍のこと心からお願い申し上げます。早いもので本校も創立以來六十年、名実共に県下一流の工業高等学校に発展いたしました。

施設、設備は勿論のこと職員、生徒の構成、クラブ活動等あらゆる面に涉つてもはや新設校と通色ないところまで発展いたしましたことを同窓生の皆さんともにおよろこび申し上げます。額に汗して業にいどんだ創立当時職員、生徒、PTA三者一体となつて校庭の整地に奮闘した

母校も一流校に

副会長(敬題) 青山 良平

姿は長く校史に輝くこととしてしよ。この精神が校風となり校風心となつてよき伝統が築かれていくものと思われまふ。此の様なよき教育環境にあてがれて本校を志望する生徒は年と共に増加の一途をたどつて居ります。本校★歌の一節に「ここに集いてわれらいさ、真理を求め技をみがき」とありますが

現在全日制九百余名、定時制百十余名各々志す道にむかつて専心勉学に励み、よき社会人、有意な工業人となるべき努力をし先輩各位に負けない様に努力して居ります。

取場で頑張る

書記(一〇) 天ヶ谷 勉

早いもので卒業してもう二年と七ヶ月以上の月日が流れてしまつた。広い関東平野の一隅、ここ大泉の東京三洋電機は野球場陸上競技場等自然の環境にめぐまれわずか八年たらずで約十倍の五千入程の従業員にふくれあがり、昼食時十五分の時差もあまりきまぬがないらしく三ヶ所の大食堂は毎日長い列をつくつて居る。三洋電機は昨年からはやく週五日制度をとりあげ又、厚生施設もあらゆる面々ととのつて居る。クラブ活動も盛んで運動クラブではラグビーをはじめ女子バレーなどは毎年

全国の舞台で活躍している、文化クラブでは彼の願しているマンドリンクラブは今年九月産業音楽祭三段目の出場で最優秀賞の栄冠をかちとつた。その他各種のクラブが発達である。

さて、僕の職場であるが小形冷凍機関係の設計をやつて居る。高校時代学んだ中で機械製図と熱力学は役にたつた。特にモリエル線図などの見方はよく使つた。その他板金関係、プラスチック成形、アルミ押し出し、ダイキヤストから冷凍理論、原価計算のやり方、使用説明書……と仕事の分野は広い。ほんとんど八九割が大学卒であるが敗けなかつもりである。

同窓会新設立について

書記(学校) 内山 幸晴

一昨年末卒業生中より会館設立の事が本部として他高校の調査を致しました。新設校の設川工高がすでに完成し他の高校でも設立を計画致して居るようです。本部においても役員会を開き創立十周年記念として会館を設立することに決定致し

ました。校門西側に鉄筋コンクリート二階建(約百坪)給工費約二十万円の予定にて細部については検討中です。くわしい事望致して居ります。

本校の現状は新設校とはいえずとも、例年の就職状況は内定完了の時期とか会社の内容の点で他校に比して少しも遜色がない。今年度(四十二年)は意外な好況であつたといえ、既に八月中に就職希望者の全員が内定した。しかもその殆んどが第一希望の会社であつた事は幸いであつた。本校創設の頃は、新設校であるための不利を痛感したこともあつたが、

しはらく経てか 職業指導主事 横山 浩 近代化、高度化には逆に新鮮にして若々しい本校の教育方針が意外にうけて、求人数が年々激増しあらゆる業種、形態、内容の企業からも本校の卒業者が非常に歓迎されるようになつたことは真に伴せてある。本校では例年三〇〇名の卒業者の中大学進学者約二〇〇名自家業従事及びその他が約一〇〇名、就職希望者は約二七〇名といふのが過去三回の平均である。

質の高い社会人に

更に年々新技術の導入や設備の近代化、高度化

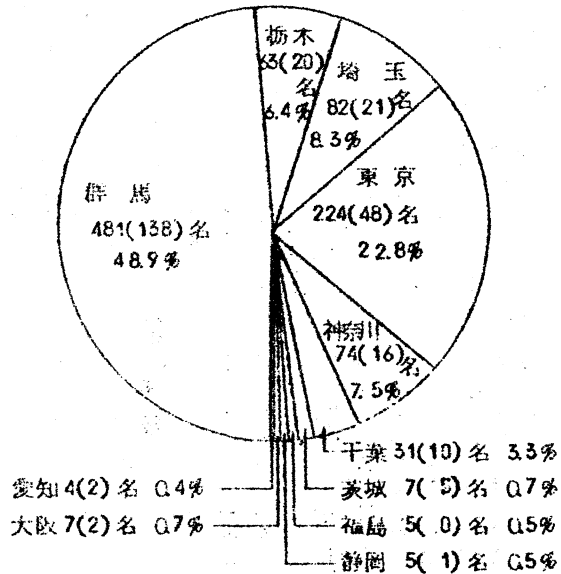
については次号又は他の方法にて連絡致します。 会員諸兄の絶大なる御協力を切望致して居ります。

飛躍的に伸びつゝある地元産業へ就職する者が断然多いが、京浜方面、更に中京や大阪方面にも積極的に進出してそれぞれ部門で大いに活躍している事は本心に結構なことである。ただ心すべきことは、高卒者がたしかに大歓迎をうけているがそれは若年労働力の極端な不足に加えて、生産設備の拡充、生産品目の多様化

ことなから質の高い高卒者を必要としている。現実の眞の社会の要求にあつたような諸君らであることを心から望んでいる。 諸君らは将来本校の大先輩となるべき立場にある。本校創設当初の頃を思い出し、あの団結とあの心意気で現実の社会に処し母校太田工業高校の名をいよいよ高からしめて貰いたい。

就職者の地区別人数

昭和39年度～42年度まで 但し()は42年度卒・見の人数



進路指導部だより

第一回懇談会終る

四十一年七月に東京の科学技術館ホールを借りて、京浜葉地区就職者と旧学級担任を主とした先生方との懇談会を開きました。これは皆さんが職場や寮での生活にうまく適応してくれているかどうか、また学校としては皆さんが勤めた会社の内容や情報

を知り在校生への進路指導の参考とする。会社側でも親元を離れた皆さん方の生活を心配している等の目的で行われたもので、久しぶりの先生や友達との懇談で有意義な一日を過ごしました。その時アンケートを取りました。集計し貴重な資料として大変役立つており皆さんの御協力を感謝致します。卒業後も皆さんの学校ですので相談等ありましたらご利用下さい。

先輩にお願い

毎年の事ながら、また皆さんの後輩が来年四月に入社致しますのでよろしく御指導願います。そして来年五、六、七月頃には今の二年生が受給の為お世話になりますのでよろしく。

何かの事情で転職したい、または転職した方はぜひ学校の方へ相談や連絡をお願いします。卒業生の実態を把握すると同時に、学校としての反省資料にもなるし皆さんに役立つ情報もあると思います。進学希望者の方も学校をご利用下さい。

学校だより

職員移動

昭和四十年四月
 川田光一先生(教) 本校定時制
 林 政明さん(事務) 退職
 小林治太郎先生(工化) 新任
 佐々木幸作先生(定、社) 新任
 根岸嘉夫さん(事務) 新任
 和田権三郎さん(警備) 新任
 昭和四十一年四月
 鈴木一郎先生 藤岡工高校長へ
 源 怡通先生(国) 船女高へ

楠本卓也先生(英) 桐女高へ
 狩野義雄先生(機) 前工高へ
 本多義雄先生(電) 退職
 八木英臣先生(電) 退職
 井野俊孝先生(電) 伊工高へ
 野村泰夫さん(事務) 退職
 青山良平先生(教頭) 伊工より
 川島泰一先生(国) 桐女より
 森田 信先生(英) 新任
 根岸 弘先生(教) 新任
 楠原 浩先生(機) 前工より
 田中健司先生(電) 新任
 三浦岳俊先生(電) 新任
 長谷川稔先生(電) 新任
 高城幸一先生(定機) 新任
 藤田弁蔵さん(事務) 太女より

昭和四十二年四月
 島岡平蔵先生(校長) 退職
 木村 允先生(機) 本校定時制
 安井 進先生(工化) 退職
 竹内保治先生(校長) 技セより
 本川 喜先生(教) 新任
 関口 清先生(体) 講師 新任
 飯島博志先生(工化) 新任
 大槻正也先生(定英) 新任

第一回卒業生以後三年間分をまとめましたがよろしくお願致します。

会員だより

☆長谷川稔君(一E)と飯島博志君(二C)は現在母校に勤務し同窓会関係の仕事を積極的に進めておられますのでよろしく。
 ☆八代哲男君(一M)は四十二年七月盲腸炎のため死去致しました。おくやみ申し上げます。

事務局だより

☆アンケートについて
 同封の葉書は皆さんの実態を調査し、名簿発行等今後の同窓会活動の資料とするものでぜひ記入の上ご返送下さい。
 ☆懇談会のアンケート結果
 前述の京浜葉地区就職者の懇談会の時読べたアンケートのうち同窓会関係は次のようでした。

- ①同窓会館作る 一九名(九名)
 - ②名簿発行する 六〇名(三八名)
 - ③会誌発行する 六〇名(三八名)
 - ④地区に支部作る三七名(二七名)
 - ⑤その他 四名(二名)
 - ⑥未記入 三五名(二六名)
- ☆本会の役員について
 先生方の移動で多少変わりましたが、たのて本部役員についてのみ協

けておきます。ご参考のため。
 会長 林進一(一M) 富士重工
 副会長 中村明(一E) 東京三洋
 関島三(一C) 富士重工
 長谷川稔(一E) 本校
 青山良平(学校) 教頭
 天ヶ谷勉(二C) 東京三洋
 内田幸晴(学校) 電気
 菊地貞雄(学校) 機械
 野田善勝(学校) 電気
 関口俊一(一E) 電々
 竹沢健雄(学校) 社会
 空井 弘(学校) 工化
 会計監査
 楠本良明(一C) 組三
 柿沼武男(学校) 国語

第一回の会誌発行ですが、母校工業祭の案内も兼ね間に合うように発送致しましたがいかがでしたか。
 初めての編集であり、事務局として不満足な点が多々ありますが発行された事に大いに意義があり、今後、原稿や意見を多数頂戴いて皆さんの会報に育ててゆきたいと思っております。よろしく御協力下さい。
 (野田稔)

編集後記

第一回の会誌発行ですが、母校工業祭の案内も兼ね間に合うように発送致しましたがいかがでしたか。
 初めての編集であり、事務局として不満足な点が多々ありますが発行された事に大いに意義があり、今後、原稿や意見を多数頂戴いて皆さんの会報に育ててゆきたいと思っております。よろしく御協力下さい。
 (野田稔)